

Location | 01
 伊藤誠
 Dinosaur
 2017
 ミクストメディア
 108.0×60.0×3.0cm

Location | 02 | 01
 富井大裕
 旅行者の制作 #1
 2017
 スーツケース、布、木材、ボルト、
 ナット、ワッシャー、荷物(本)
 118.0×162.0×29.0cm

Location | 02 | 02
 富井大裕
 旅行者の制作 #2
 2017
 スーツケース、布、木材、ボルト、
 ナット、ワッシャー、荷物(本)
 97.0×220.0×37.0cm

Location | 02 | 03
 富井大裕
 旅行者の制作 #3
 2017
 スーツケース、布、木材、ボルト、
 ナット、ワッシャー、荷物(本)
 207.0×177.0×37.0cm

Location | 03
 村田峰紀
 trans
 2017
 辞書
 サイズ可変

Location | 04
 構想計画所
 Green Cube
 2017
 木、鉄、キャンバス、写真、その他
 400.0×400.0cm +
 暗室(サイズ可変)

Location | 05
 大久保あり
 WHITE CUBE IS
 EMPTINESS
 2017
 ミクストメディア
 サイズ可変

Black Circle is Nothingness
 2017
 カッティングシート
 会場内各所に設置

Location | 06 | 01
 近藤恵介
 桌上的絵画(引込線2017) 01
 2017
 岩絵具、水干、膠、棒絵具、
 墨、鳥の子紙、色画用紙、
 石、木材
 紙片 | (左から) 33.5×40.4cm、
 26×62.9cm

Location | 06 | 02
 近藤恵介
 桌上的絵画(引込線2017) 02
 2017
 岩絵具、膠、棒絵具、墨、
 鳥の子紙、石
 紙片 | (左から) 30.2×59.6cm、
 31.0×59.7cm

Location | 06 | 03
 近藤恵介
 桌上的絵画(引込線2017) 03
 2017
 墨、鳥の子紙、木材
 紙片 | (上から) 30.2×59.9cm、
 30.1×59.3cm

Location | 06 | 04
 近藤恵介
 桌上的絵画(引込線2017) 04
 2017
 岩絵具、水干、膠、
 鳥の子紙、石
 紙片 | (上から) 33.5×60.7cm、
 33.4×60.4cm

Location | 06 | 05
 近藤恵介
 桌上的絵画(引込線2017) 05
 2017
 岩絵具、水干、膠、墨、鳥の子
 紙、石、木材
 紙片 | (左から) 30.1×59.8cm、
 30.2×59.9cm、30.1×59.9cm

Location | 06 | 06
 近藤恵介
 桌上的絵画(引込線2017) 06
 2017
 岩絵具、水干、膠、棒絵具、
 墨、金箔、ペン、鳥の子紙、
 色画用紙、板、石、木材
 紙片 | (左から) 30.1×59.9cm
 30.2×79.2cm、30.2×59.9cm
 54.7×78.9cm、30.2×78.9cm
 30.1×59.9cm、34.0×60.8cm
 板絵 | 26.5×26.5cm

Location | 06 | 07
 近藤恵介
 桌上的絵画(引込線2017) 誰が袖
 2017
 岩絵具、水干、膠、棒絵具、
 墨、ペン、鳥の子紙、画用紙、
 ステンレス台
 160.0×90.0×120.0cm

Location | 07
 高嶋晋一 + 中川周
 standstill
 2017
 HDビデオ(カラー/サウンド)
 41分

Location | 08
 遠藤利克
 寓話V—鉛の柩Ⅱ
 2017
 木、鉛、鉄、(火)
 75.0×317.0×67.0cm

Location | 09
 二藤建人
 断面をつなぐ
 2017
 モニター
 サイズ可変

Location | 10 | 01
 戸田祥子
 公園で、その後左右
 2017
 映像
 7分42秒

Location | 10 | 02
 戸田祥子
 たぐる午後
 2017
 プラスチック、リボン
 32.0×18.0×12.0cm
 55.0×32.0×15.0cm

Location | 10 | 03
 戸田祥子
 風景たちとのピンポン
 2017
 ビニールにペン、又は紙にペン
 112.0×145.5cm
 894.0×145.5cm
 55.0×38.0cm 他

Location | 11 | 01
 うしお
 ここから外には出られません。
 2017
 紙にインクジェット、鏡
 紙 | 29.7×21.0cm
 鏡 | 19.0×16.0cm

Location | 11 | 02
 うしお
 球体の亀裂
 2017
 地球儀、アクリル
 21.0×21.0×21.0cm

Location | 11 | 03
 うしお
 連続しない・時間・踊り場
 2017
 アクリルミラー
 130.0×240.0×2.0cm

Location | 12
 寺内曜子
 かまいたち
 2017
 建物も含む
 事務室、紙
 計測不能

Location | 13 | 01
 末永史尚
 額
 2017
 合板にアクリル
 41.0×56.0×1.5cm

Location | 13 | 02
 末永史尚
 額
 2017
 合板にアクリル
 36.3×50.0×1.5cm

Location | 13 | 03
 末永史尚
 額
 2017
 合板にアクリル
 33.5×49×1.5cm

Location | 13 | 04
 末永史尚
 額
 2017
 合板にアクリル
 30.5×41.0×1.5cm

Location | 13 | 05
 末永史尚
 額
 2017
 合板にアクリル
 30.0×40.5×1.5cm

Location | 13 | 06
 末永史尚
 額
 2017
 合板にアクリル
 30.0×21.5×1.5cm

Location | 13 | 07
 末永史尚
 段ボール箱
 2017
 合板にアクリル
 43.0×32.5×19.5cm

Location | 13 | 08
 末永史尚
 段ボール箱
 2017
 合板にアクリル
 37.5×28.5×27.0cm

Location | 13 | 09
 末永史尚
 段ボール箱
 2017
 合板にアクリル
 33.5×25.0×23.0cm

Location | 13 | 10
 末永史尚
 段ボール箱
 2017
 合板にアクリル
 31.0×25.0×11.0cm

Location | 13 | 11
 末永史尚
 段ボール箱
 2017
 合板にアクリル
 22.0×18.0×16.0cm

Location | 13 | 12
 末永史尚
 発泡スチロール箱
 2017
 合板にアクリル
 53.5×36.5×20.0cm

Location | 14
 川村元紀
 Unbalanced scenes
 2017
 ミクストメディア
 サイズ可変

Location | 15
 水谷一
 Tertiary the younger
 Mud-stone
 2017
 状況、描画体(木炭、紙)
 描画体範囲 | 430.0×708.0cm

Location | 16
 箕輪亜希子
 house effect
 2017
 中古品と文字による
 インスタレーション
 サイズ可変

Location | 17
 大野綾子
 ねがう人、立てる人
 2017
 砂岩、御影石、トラバーチン、
 木、鉄、ロープ、その他
 サイズ可変

Location | 18
 吉川陽一郎
 行為が態度になる時間
 2017
 パフォーマンス
 直径1,000cm

Location | 19
 blanClass
 blanClass@引込線2017
 2017
 Live Art

小山友也 || 勝手に引き受けて
 インストラクション
 8月26日-9月24日
 10:00-17:00

村田紗樹 || ステート
 音声 インスタレーション
 8月26日-9月24日
 10:00-17:00

野本直輝 || Have a nice day
 スタンプコーナー
 8月26日-9月24日
 10:00-17:00

阪中隆文 || 阪中家の偉大な穴
 参加型パフォーマンス
 8月27日 | 13:00-17:00

野本直輝 || Have a nice day
 挨拶 / パフォーマンス
 8月27日 | 13:00-17:00

加藤果琳 || ことかその間に
 パフォーマンス
 9月9日 | 11:00-17:00

関真奈美 || 乗り物 # 鑑賞
 パフォーマンス
 9月10日
 動作コマンド作成 12:00-
 稼動「鑑賞」15:00-

おしゃべりスポット実行委員会
 奥誠之・宮澤馨・橋場佑太郎
 実地調査
 9月11-15-18日 | 10:00-17:00

うらあやか
 ビーズのネックレスがほどこけて
 参加型パフォーマンス
 9月16・23・24日
 12:00- | 14:00- | 16:00-
 (各回約15分)

関川航平 || 風景のファイラー
 参加型イベント(要予約)
 9月17日 | 集合 13:30

岡本大河+宮川知宙
 Z-ゼットーで注目する
 デモンストレーション/レクチャー
 9月23日 | 10:00-17:00

岡本大河+宮川知宙 || 28×6
 撮影/インスタレーション
 9月23日 | 集合 13:00 | 15:00

及川菜摘 || 手紙にのせて
 お土産型作品
 9月24日 | 10:00-17:00

吉田裕亮
 上から見るか、下から見るか
 パフォーマンス/スケッチ
 9月24日 | 10:00-17:00

企画
 小林晴夫
 共回企画
 小山友也、野本直輝
 宮川知宙、宮澤馨

Location | 20
 伊藤誠
 正三角形の頂点
 2017
 木
 156.0×160.0×180.0cm

Location | 21
 川村元紀
 Children's children
 2017
 板、絵具、コンクリートブロック
 約150×50cm (数点)

Location | 22 | 01
 末永史尚
 消しゴム
 2017
 合板にアクリル
 8.0×6.0×9.0cm

Location | 22 | 02
 末永史尚
 水平器
 2017
 合板にアクリル
 150.0×5.0×2.0cm

Location | 23
 富井大裕
 旅行者の制作(試作)
 2017
 スーツケース、布、木材、ボルト、
 ナット、ワッシャー、荷物(本)
 118.0×162.0×29.0cm

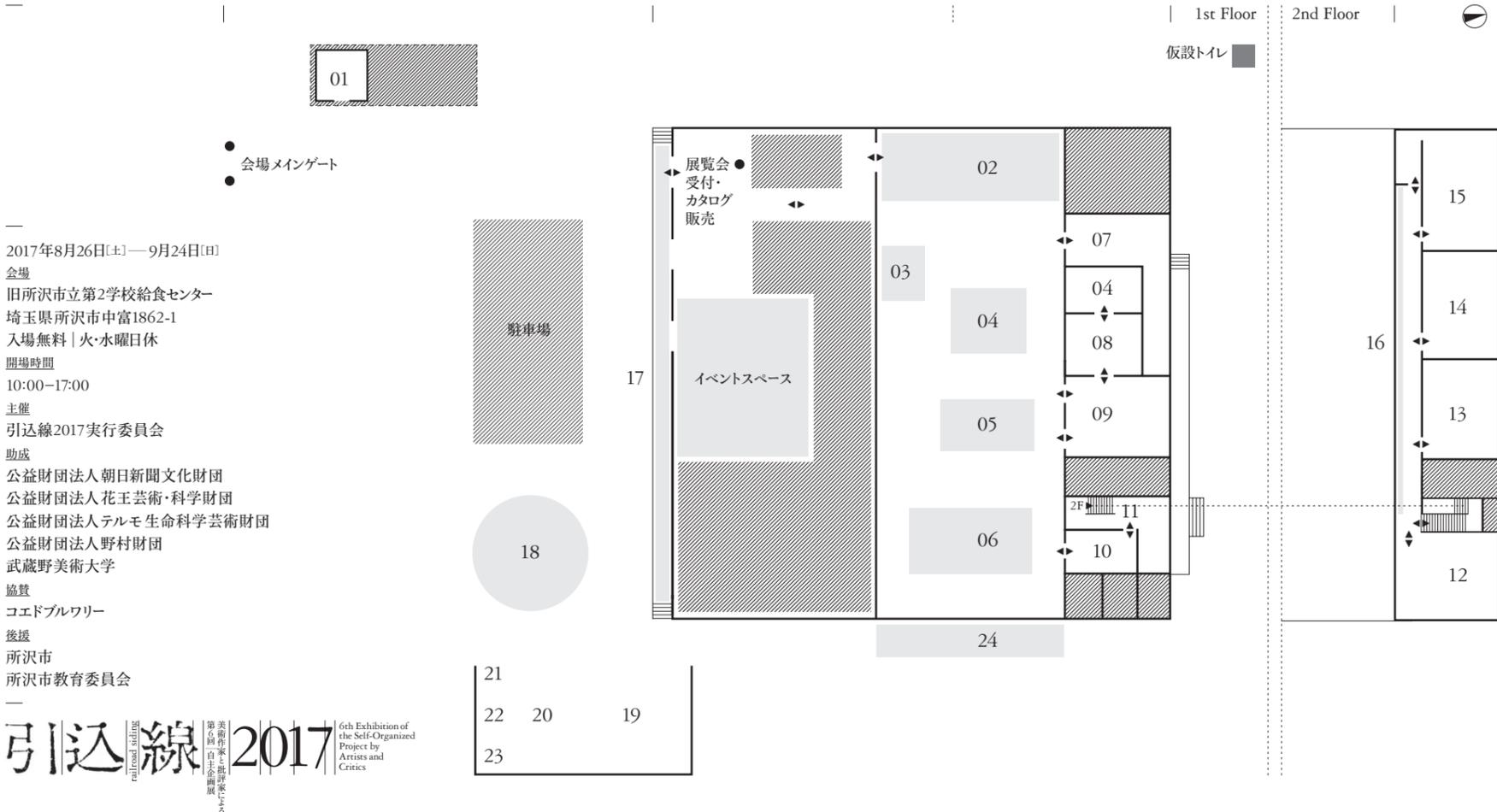
Location | 24
 中野浩二
 峠(パノラマ)
 2017
 ターポリン印刷
 180.0×800.0cm

イベントスペース

「引込線2017」では毎週末を
 中心に、会場内イベントス
 ペースを使用し、「ゼミナール給食セ
 ンター」(トーク、シンポジウムなど)、
 パフォーマンスなどを開催いた
 します(イベントルーム構成:構想計
 画所)。

さらに今回展では、会期中3日
 間限定で、サテライト会場(所沢
 市生涯学習推進センター多目的室)
 を利用したイベントを行います
 (引込線や引込線参加者に関する
 リファレンスルームの開設、及びその他
 企画)。

企画内容、日時ほか、各イベ
 ントの詳細はホームページをご
 覧ください。



Location | 01 | 20

伊藤誠
Makoto Ito



窓から光が射し込む薄暗い小屋に掛軸が展示されています。写真の影絵が「恐竜」の見立てであることは一目で分かりますが、柵で遮られているため近づいて鑑賞することはできません。置かれた懐中電灯で作品を照らしてみましょう。左上の手は立体に貼り付けられた写真像で、右下の手がそれを掲げています。つまり左の手は「写真の写真」。不可解に組まれた二つの手は、それぞれ異なる階層にあることが分かります。掛軸を照らすことや、一方向に限定された鑑賞の滑稽さも手伝って、「絵をよく見る」ことの奇妙な経験がここに引き出されます。[小林]

Location | 02 | 23

富井大裕
Motohiro Tomii



スーツケースから木製の構造体が伸び、そこに布が垂らされています。木材を解体すれば、布と共にすべてスーツケースひとつに収まり、移動が可能。本作で富井は、美術家が旅行した際に立ち現れる制作の可能性を思索しています。美術家という既成の立ち位置に留まるのではなく、旅行者という立ち位置にあって同時に美術家である、という重なり合った状態に可能性を見ているのです。旅行者から発せられた作品は、いわゆる「美術作品」として消費されないからこそ、空間に変化を与え、既存の価値を転倒させる本質的な働きをし得るのかもしれない。[上久保]

Location | 03

村田峰紀
Mineki Murata



集積した紙片の柱が、外光を遮らばかりにうねり、のたうちまわっています。素材となっているのは、ドローイングが施された辞書です。制作者である村田は、以前行ったパフォーマンスの残骸を立体に再構成して展示しました。これまでにこの作品は発表されてきましたが、今回の展示会では初めて宙に浮かせたような形式がとられています。この会場へ下見で訪れた際、作家の印象に強く残ったのは、窓から射し込む陽光でした。言葉が集合する辞書というモチーフと、作家によって生み出された力強い描画は光と共鳴し、声ならぬ声を発します。[小林]

Location | 04

構想計画所
Conceptual Architect



引込線の会場は、災害救援物資の備蓄庫(かつての給食センター)を利用した、独特な雰囲気がある空間です。構想計画所は、この場所の機能に着目した作品を展開します。鉄パイプで持ち上げられライティングされた緑色の小部屋からは、映画の撮影で使われるグリーンバックが想起できるでしょう。映像編集によって様々な画像をここに合成できることから、この部屋の内部はある意味、極めて中立的なものと言えます。未だの災害に備えた廃施設という場所で、このスクリーンに合成されるイメージとはいかなるものか、私たちの想像力を駆り立てます。[小林]

Location | 05

大久保あり
Ari Ookubo



巨大なテキストのオブジェ《WHITE CUBE IS EMPTYNESS》は、大久保の前作《Black Circle is Nothingness》から言葉遊びによって生まれました。無、空といった形にできない抽象的な観念を、あくまでも彼女は中立の立場で出現させます。それらは、国や人種、宗教、政情など個人の置かれた状況によって様々な解釈をされ、時に争いの種にもなります。多様な解釈、とすれば作家への誤解さえ招く言葉が物として現れた空間は、何が起るか予測しえない静かな緊張感に満ちています。[嶋田]

Location | 06

近藤恵介
Keisuke Kondo



今夏より始まったシリーズ展「卓上の絵画」の作品です。それは、大正末期に日本画家錦木清方が、身近に楽しむ芸術として提唱した「卓上芸術」をくむものです。近藤は、清方が別荘での出来事を綴った絵日記に、時間のうつろいとイメージの連続を感じ注目します。引込線では、時間の経過の中で作品が変化していく様子そのものを表現しようと試みます。会場で、紙は湿気に波打ち、風に揺れ変化を重ねます。その揺らめきに呼応するのは、作家の指先の感触や卓上の紙に重力を感じながら描く身体性であり、それらは私たちに鑑賞という時間を創造します。[嶋田]

Location | 07

高嶋晋一+中川周
Shinichi Takashima + Shu Nakagawa



《standstill》はある種の「形而上映画」です。全編あからさまな作為性を帯びているにもかかわらず、どこか人為とは異なる、世界への非情で透徹した眼差しが表れています。この静止した動画、または動的な静止画においては、自然には自然現象を起こさず、カメラそのもののフィジカルな動きによって現象が発生しています。カメラへの衝撃でイメージが揺らぎ、再び元の地点へ引き戻される流れは、一瞬の中に潜む因果を問います。それは私たちが棲まう現実の回帰でありながら、そこから根本的に分離しているという感覚をも観者に与えます。[齋藤]

Location | 08

遠藤利克
Toshikatsu Endo



遠藤は今回の引込線で、1980年代から制作されてきた「寓話」シリーズより、樞(ひつき)を出品します。「寓話」は、日本のモダニズムにおいては芸術表現のタブーとして考えられてきた物語性にあえて取り組んだものです。火や土、水といった素材から生まれる彼の彫刻は、鑑賞者の人間としての原初的な感覚、物語を呼び起こしてきました。この作品では、樞というモチーフと暗く狭い展示空間から、霊安室のような場所が思い浮かぶでしょう。室内の自由な行き来を阻むその異様な圧迫感、秘匿された死のたがならぬエネルギーをも感じさせます。[小林]

Location | 09

二藤建人
Kento Nito



光と音のざわめきが喧々たる薄闇の展示室。ここでは18台のモニターが組に分かれ、向かい合われています。観客の直接的な眼差しを妨げるこの配置は、二藤がこの場に呼び寄せた断片が対になる構図で映し出されている為です。その映像に歩み寄ろうと、全貌を掴むことは叶いません。向かい合わされた断面の間、そこには分断と統合の交差線が出現します。《断面をつなぐ》は、人間の意識により対義的に扱われてきた幾多もの世界が、未来にはひとつに擦り合わされる予兆、あるいは、分かちものへの再認識を投じるのです。[齋藤]

Location | 10

戸田祥子
Shoko Toda



今回の展示は、公園で撮影された写真・映像と、そこから生まれたドローイング、立体で構成されています。映像やスライドショーからは身体の移動や動作が伝わり、風景が身体と連動したものであることが感じられます。スライドショーを紙に投影し、視線の先をぞったドローイングと、同じように色を抜き取り、その色のリボンを順番に繋げた立体作品。これらは戸田が能動的に身体を動かし、自身の風景の見え方を確認した痕跡です。移り変わる視点や身体の状態、風景が呼び起こす記憶により、同じ景色は何度も違う形となって現れるかのようです。[坂巻]

Location | 11

うしお
Usio



時間や空間が分割された状況は、社会や個人など様々な人間の意識によってたらされるものです。会場の二階へ続く階段には、そうした意識世界へ立ち向かう方法論として、うしおの3点の作品が展開されています。《連続しない時間・踊り場》は、踊り場に6枚の鏡が並べられた空間展示です。見える範囲を強制的に制限し、限定的な視覚を強いる視界は、鏡が映像の属性と類似していることを仄めかします。現実と反転世界を往来するうちに立ち現れるイメージを、自分のものにせねばなりません。「ここから外に出る」ために、武器を携える必要があるのです。[齋藤]

Location | 12

寺内曜子
Yoko Terauchi



この会場の一角に、寺内は「かまいたち」を通過させました。黒い紙で塞がれた部屋の窓に、その痕跡として二つの破れが残されています。赤い裂け目をめくり上げる四角い開口部と、もう一方には斜め十字の切れ込みが見えます。一見すると、開かれた破れと閉じられた破れ、といった対立関係を感じるかもしれませんが、しかし、様々な視点から向き合っていくうちに、これらがひとつの太刀筋から生まれた「ひとつ」の破れであることに気がきます。そのとき、人が投影した対立区分は意味を失い、より俯瞰的な高次の視点に導かれていくこととなります。[上久保]

Location | 13 | 22

末永史尚
Fuminao Suenaga



この会場はもともと給食センターであり、展示場所としてつくられた施設ではありません。末永の作品は、私たちが普段目にする日用品や、画家である自身がよく見かけるものがモチーフになっています。それらと同じサイズで複雑な形を排除した立体に、平面的な彩色を施します。また、作品の配置場所や状態も、視覚経験に基づいていることにより、この無造作な空間とまぐ馴染んでいるのです。ありふれているからこそ存在感が薄いものを、絵画的な立体作品として提示されることで、私たちが自然と行っているものの捉え方が見えてくるでしょう。[坂巻]

Location | 14 | 21

川村元紀
Motonori Kawamura



《Unbalanced scenes》は、雑多なオブジェが部屋全体に混在するインスタレーションです。天秤や椅子などの具象性を含みながらも、一步作品内に足を踏み入れるとそれらが霧散していくような、意味が宙吊りにされた空間が作りだされています。ただ、オブジェの配置における(アン)バランス感覚は、どこか絵画的なコンポジションの裏返しにも見えます。《Children's children》は、川村が子どもに擬態して描いた作品群です。技術的な制御が甘い子どもの筆致は、絵画的性から逃れながら「弱い」人物像を結びます。[上久保]

Location | 15

水谷一
Hajime Mizutani



木炭による黒い線で描かれたものが部屋の床一面に敷き詰められ広がっています。「描画体」と名づけられたそれは、冷え固まった溶岩のように見えたり、内部で生き物が蠢いているような気配も感じられたりと鑑賞者の様々な想像をかきたてます。また、部屋全体を作品世界の枠組みと見たとき、「描画体」は室内の天井や窓、差し込む自然光と共鳴します。視線が、力強い線と交わり合い周囲とを往復し、さらなる想像の世界へと誘われます。線を走らせる作家の繰り返しの動作に日々の営みを顧みて、私たちは思いがけない気づきと出会うことでしょう。[嶋田]

Location | 16

箕輪亜希子
Akiko Minowa



倉庫内を歩み見上げる視界の中に点在しているもの達は、二階の廊下を渡り歩くことで一望できます。箕輪の手によって収集された言葉とものの集積は、場内という同じ時間軸にありながら、時に空虚なほどの距離から追憶的に、時に身体を蝕むような生々しい感覚で迫ってきます。進行方向を強制し流れ行く景色は時間の経過に再配置され、その姿は映像装置とも表せてでしょう。会場へ捧げられた世界の断片は、見通すことで観客の密やかな部分に繋がりを持たせます。その白昼夢は各々の思い出の残骸と輪郭を重ねながら私達の中に堆積し、かたちを作るのです。[齋藤]

Location | 17

大野綾子
Ayako Ohno



大野は日常生活で起きた出来事や経験を彫刻作品として提示してきました。本作は日時計及び祭り・儀式の場としての機能を持っていた縄文時代の遺跡「環状列石」を見た経験を通し、制作の過程や目的、それに携わった人々から触発され生まれました。この経験によって意識を向けるようになった人間の衝動的思考・行動と、彫刻家としての自身を重ね、そこから発見した共通点や自身の存在と向き合った作品でもあります。硬さのある重たい石彫作品を高さのある場所に配置することで、思わぬ石の魅力に気づく新たな視点を私たちに与えてくれます。[坂巻]

Location | 18

吉川陽一郎
Youichiro Yoshikawa



吉川は身体性をテーマに、行為や所作と称した動きを実演してきました。あくまで日常的な「歩行」という動作を基本に、円周上を鉄球を転がしながら繰り返し回る行為は、見る者に共通の感覚を呼び起こす目的や意味を考えさせます。一周約25秒で歩く吉川は鉄球、コンクリートと自身の身体との共振や微細な変化とも向き合い続けます。同じ行為を繰り返しているようで、その内側にはあらゆる現象が起きているのです。その時間の流れは日々の生活のようなものであり、行為によって伝えることの本質を表明しようとする作家のひたむきさも感じられます。[嶋田]

Location | 19

ブランクラス
blanClass



blanClassは横浜市に拠点を構える芸術発信のためのオルタナティブな場です。今回はその機能が一時的にこの会場へ移設され、新たなプラットフォームが構築されています。引込線は展示会と論文集の二層が形づくる企画ですが、そこにさらなる第三のレイヤーを重ねることが図られており、そのために新たに12組のアーティストが呼び込まれました。拠点内に留まらず、会期中、パフォーマンスやイベントがさまざまな場所で展開されます。ふと気付くと会場内のどこかでblanClassのプロジェクトに巻き込まれているかもしれません。[上久保]

Location | 24

中野浩二
Koji Nakano



中野はこれまで、石膏を用いた人物彫刻の制作と並行して、その像と風景写真を合成するという試みを密かにおこなってきました。本展では、これまで作品としてほとんど展示されることのなかったその合成画像を引き延ばして印刷した横断幕を展示します。普段の展示とは違う環境にある中で、自作の存在意義を追求しているのでしょうか。彫刻と風景のつじつまの合わない組み合わせからは、観光地の顔出しパネルが連想されます。私的なものであった行為は、奇妙な親しみやすさを帯び、作品として私たちの前にあらわれます。[坂巻]

引込線 2017

6th Exhibition of the Self-Organized Project by Artists and Critics

ガイド執筆

上久保直紀 [武蔵野美術大学大学院 芸術文化政策コース学生]
小林公平 [武蔵野美術大学 芸術文化科学学生]
齋藤紫乃 [武蔵野美術大学 芸術文化科学学生]

坂巻文香 [武蔵野美術大学 芸術文化科学学生]
嶋田智文 [武蔵野美術大学 芸術文化科学学生]